

情報モラルと道徳④ ～資料とのコラボを考える～

北川 忠



1 新情報モラル3年「個人情報の保護」

26年度版の『ゆたかな心』3年情報モラルは、個人情報保護の取り扱いである。この年頃の子どもでは友だちから聞いた家族の秘密をつい、悪気なく人に漏らしてしまうことはあり得ないことではない。これは「だれにも言わない」という約束をしても、漏れた場合の事の重大さについて理解していないことに起因する。また、他人事であるために深く考えていないという理由もあるだろう。まさか秘密がその後独り歩きすることなど思いもしないのではないか。そこで、知り得た情報をむやみに人に知らせることの危険性について考えさせる機会をもつことは大切である。この個人情報の保護について「約束」というキーワードを軸に公德心の資料とコラボさせてみることにした。

2 ねらい

- ◎約束を守り、友だちとの信頼関係を築く。
- ・約束を守らないと友だちが困ることがわかる。
- ・約束を守るといいことがあることに気づく。
- ・約束を守らないと自分が困ることがわかる。
- ・約束の意義が分かり、これからも約束を守ろうとする。

3 資料「やくそくだもん」と「ないしょの話」

まず初めに資料「やくそくだもん」を指導する。ねらいとする内容項目は中学年の4（1）規則尊重、公德心。『「公德心」とは、公的な集団や社会の中での約束やきまりの意義を認識し、それを大切にしようとする心である』（『道徳授業ハンドブック』新宮弘識著 光文書院より引用）ゆえに、約束やきまりの意義を理解し、守ろうと努力する過程で公德心は育っていく。また約束は、きまりが公的な了解事であるのに対し、私的な相互の了解事である。守らなくても法で罰せられることがないかもしれないが、お互いの信頼関係にひびが入ることになるだろう。本資料はお楽しみ会の準備を引き受けた「高志」が、苦勞してみんなとの約束を果たすという内容である。この資料で前半部を指

導する。発問は「約束が守れなければどうなるか」と「約束を守るとどうなるか」について自分と周りの二つの側面から考えさせる。ただ、この資料は約束を守った例を取り上げているので具体的には、

- ・もし帽子が間に合わなかったらクラスみんなはどんな気持ちになるでしょう。
- ・みんなの喜んでいる様子を見た高志はどんな気持ちになったでしょう。

発問はこの二つでよいかと思う。そして、約束を守るには大変な場合もあるが、守れば自分も周りもうれしくなることを確認しておく。ここまですを15分以内で通過したい。板書は二つの観点と二つの側面を記録できるように上下左右に四分割されているとよいと思う。

次に情報モラル「ないしょの話」を指導する。「たく」は友だちの「けいた」を信頼して家族の秘密を話したが、けいたは軽い気持ちで学級新聞の記事にしようとする、約束を破ってしまった資料である。約束の内容が個人情報保護である。資料では秘密の内容が明らかにされていないが、些細なことであっても個人情報の流失がもたらす危険性を考えさせるには都合のよい資料である。発問は、

- ・もしこの新聞をみんなが見たとしたら困る人はいませんか。
- ・たくはけいたに対してどう思うでしょう

この二つ。子どもの考えは、前半の「守れなければどうなるか」に追記する。この資料を合わせて考えさせることで、前半の資料だけでは不十分な部分、「約束を破られて困る人」の具体的な困り具合について補填することができる。そして、黒板の中心に「信じる心」と書き込み、約束の意義を確認する。ここまですで35分である。

4 『わたしたちの道徳』との関連

最後に『わたしたちの道徳』の128ページで、「みんなが守らなくてはならないきまりがある」を確認させて、約束も人と人とのきまりごとであることを押さえて終末としてみたい。